



Triple Tree Media Information

2026 年 10 月 10 日

予想外の苦戦を強いられた第 9 戦。しかしセクタータイムの向上もあり、第10戦に向けてポジティブな感触を得る！



結成 2 年目を迎えた『HAZAMA ANDO Triple Tree Racing (以下、チーム)』は、10 月 9 日 (土) に静岡県・富士スピードウェイにて開催された『2026 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 9 戦』に参戦いたしました。

今大会は金曜日に 2 回のフリー走行が行なわれ、土曜日に第 9 戦の予選、決勝、そして日曜日に第 10 戦の予選、決勝が開催される 1 大会 2 レース制のイベントです。

第 8 戦から約 2 か月のインターバルがあったため、Juju はヨーロッパのサーキットで走り磨き、自信を持って富士スピードウェイでのレースに臨みました。

しかし金曜日に行なわれたフリー走行では、持ち込みセットアップのフィーリングがエンジニアの想定とは大きく異なり、リヤタイヤに大きな負担をかけてしまうことが判明。チームはさらに異なるセットアップを試しましたが 1 日で改善することができず、Juju にとっては厳しいスタートとなってしまいました。

その晩、マシンの整備中にメカニックがトラブルの原因を発見。しかし翌朝いきなり予選という状況の中、チームはリスクを最低限に抑えるために昨年の富士大会で好感触を得たデータをもとにセットアップを修正することとしました。

Triple Tree Racing





チームは土曜日の午前 9 時 40 分からスタートする予選までにセットアップの大幅な変更を施し、文字通り 1 発勝負に出ます。Juju は予選 A 組での出走となり、わずか 10 分間という限られた時間の中で、前日とはまったく異なるセットアップを施されたマシンのパフォーマンスを最大限に引き出しました。予選開始時のコンディションは気温 21℃、路面温度 30℃という状況でしたが、Juju は昨年の予選での自己ベストタイムから僅かコンマ 1 秒落ちとなる 1 分 23 秒 451 をマークし、野田英樹監督は無線でその集中力を称えました。

マシンが持つパフォーマンスを可能な限り引き出す走りを見せた Juju ですが、残念ながら予選 Q2 進出を果たすことはできず、決勝は 23 番手からのスタートとなりました。

午後 3 時、41 週の決勝レースは気温 25℃、路面温度 39℃というコンディションの中でスタートが切られました。

スタート直後の混戦の中、前に出たものの後方のマシンがイン側から押し出すように迫ってきたため接触を避けた Juju はひとつポジションを落として 1 周目のコントロールラインを通過。タイヤが温まってきた 3 周目から再び追い上げを開始しました。前のマシンとの差を縮め、オーバーテイクボタンを極力使わないよう意識しながらハイペースで周回を重ね、7 周目にはセクタータイムで前を行く 2 台のマシンを上回り、8 周目にはトップグループと同等のラップタイムを刻みます。

しかしリヤタイヤが厳しい状況となり、Juju は自らのドライビングスタイルをアジャストしながらレース前半でオーバーテイクシステムをセーブしつつ、前をいく 3 台のマシンと同等のペースで周回を重ねます。

途中、野田英樹監督が「タイヤが厳しくなっているからピットに入るよ」とうながすと、自己ベストタイムを更新しながら、「いや、このままだとチャンスが無いから、セーフティカーが出るまで頑張りたいです」と意地を見せました。

チームは Juju の言葉を支持し、レース終盤までできる限り引っ張る戦略に変更します。ライバルたちのピット作業によって、12 周目に 19 番手、13 周目に 16 番手、17 周目には 13 番手へとポジションを上げ、20 周目には 10 番手まで浮上してピットイン。チームは素晴らしいピット作業で Juju を 23 番手でコースに戻しました。

残り 20 周、Juju は前を行くマシンを追い続け、レース終盤の燃料が軽くなった状態で毎ラップのように自己ベストタイムを更新。特にセクター 2 はトップグループと遜色ない素晴らしいタイムをマークし、明日の第 10 戦へ期待の持てる走りを見せました。41 周レースを 22 位で終えた Juju は、無線でチームへの感謝を伝えるとともに、SFgo アプリで応援してくれたファンの皆さんへ「みんな応援してくれてありがとう。今日は厳しいレースだったけれど、明日もまた応援よろしくお願いします」との感謝のメッセージを伝えました。

Triple Tree Racing



Rd	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
9	富士	41	晴れ	25℃	39℃	23 位	22 位

※気温、路面温度は決勝スタート時



◆ドライバー Juju のコメント

「金曜日のフリー走行では、持ち込みセットを大きく変えたのですが、結果としては良くないフィーリングでした。チャレンジ的な要素もあったのは理解していましたが、なかなかうまくいかなかったです。チームを信じて土曜日の予選に臨みましたが、マシンのセットアップは良くなっており、みんなの努力に感謝しました。

決勝レースは3周目を過ぎたあたりからリヤタイヤが厳しくなってしまう、勝負の権利はなかったと思うので、いろいろ走りのアジャストしながらタイヤをマネジメントし、なんとかセーフティカーが出るチャンスを待ちました。でも残念ながら今回は最後までセーフティカーは出ませんでしたし、悔しい結果ではありますが、自分たちは精いっぱいやる事をして、明日の第10戦で巻き返したいと思います」

◆監督 野田英樹のコメント

「金曜日のセットアップにトラブルがあったことで、ドライバーには厳しいレースをさせてしまったと思います。エンジニアはデータを解析して一所懸命考え抜いた結果の持ち込みセットだったわけですが、結果として1日ぶん出遅れてしまった状



態になってしまいました。誰が悪いわけでもなく、最後まで諦めずに戦い抜くことが我々のような新しいチームには大切だとは思っています。最終的には去年の富士で好感触を得たセットアップに戻し、予選ではドライバーがぶっつけ本番でそのマシンのパフォーマンスを最大限引き出してくれました。昨年の予選タイムから僅かコンマ1秒しか落ちていなかったことは高く評価したいです。決勝は攻めのレースを続けましたが、ドライバーにとっては厳しい戦いだったはずですが、それでもセクター2ではトップと遜色ない走りを見せてくれたので、そのデータを解析し、明日の第10戦では今日のリベンジができるように、できる限りの努力を惜しみません。応援してくださっている皆さんに、結果でお返しできるレースがしたいと思っています」

◆代表 土沼広芳のコメント

「今日は厳しいレースでした。マシンのセットアップが、なかなかドライバーのパフォーマンスを引き出せる状態になっていないのが課題ですね。ストレート速度も全然遅いし、その原因がつかみ切れていない状況も、明日までに何とか解決してあげたいと思っています。今日のレースに関してはドライバーもエンジニアも、そしてメカニックたちもやれることはすべてやったと思います。タイヤ交換も素晴しかったですし、ドライバーと監督の戦略に関する無線でのコミュニケーションも良かったです。今回も多くのスポンサーの方々や、ファンの方々が応援に来てくださって、温かい雰囲気の中で迎えて頂きました。とにかく明日に向けて、ベストを尽くして頑張りたいと思います。応援ありがとうございました」



◆この件に関するお問い合わせ: マネージメントアドバイザー チャーリー・チェン cac@3tree.jp

Triple Tree Racing

